



別の顔

放課後は



after

毎日を送りました。
高校では、守備を重点的に練習。遊撃手と投手として貢献できるようにになりました。チームは7月の県予選で惜しくも準優勝となりましたが、走・攻・守そろったプレイと身体能力が評価され、読売ジャイアンツから育成ドラフト2位指名を受けました。ドラフト

鹿屋中央高校
むらやま げん
村山 源 さん(3年生)



田崎中出身で、好きな教科は日本史。休日には午後10時から次の日の昼まで寝るほど睡眠が好きで、寝るときに抱きしめる「ぬいぐるみ」が、睡眠の質を高めてくれると話す。

野球をしてきた兄の影響で、私も幼い頃から野球をしてみたいと自然に思うようになりました。小学4年生で少年団に入ると野球に没頭。家では、とにかく時間ができれば父と練習する



school



の日は指名されるか不安で、とにかく緊張していたことを覚えてい

まず、11月のジャイアンツ・ファンフェスタで約4万人の前に立った時に、いよいよプロになったと実感。日本を代表する遊撃手になって「鹿屋のスター」になれるよう、まずは体作りから頑張ります。

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!



タイムトラベル ~温故知新~

21話

高須の常平倉



薩摩藩11代藩主、島津斉彬は反射炉の建設や造船を初めとする様々な富国強兵政策で、幕末期の薩摩藩の位置を押し上げた名君として知られています。
嘉永6年(1853年)大隅・日向を巡検した斉彬は、高須町に立ち寄り「常平倉」を視察しました。常平倉とは、嘉永4年に斉彬が指示した政策の一つ。大量の米を藩内の常平倉に備蓄することで、米の価格が変動した際に米の流通を調整します。これは、薩摩藩全体で米の価格の安定を図り、領民の飢えに備えるための政策でした。
高須町にあった常平倉は、現在の高須海水浴場駐車場付近に



▲11月12日、高須学習センターで「世界史の中の高須」という題で尚古集成館の松尾千歳館長による講演が行われたほか、高須海水浴場駐車場では常平倉跡記念碑もお披露目されました。

あったものを「西倉」、集落の東端にあったものを「東倉」と呼んでおり、明治の初めまで存在したことが分かっています。また、これらの蔵に鹿屋、花岡、大始良、吾平、高山、串良、高隈、百引など大隅の中部から集められた米が貯蔵された後、鹿児島に搬出されました。
この政策の起源は古く、中国の戦国時代(紀元前5世紀)に常平倉と同じような政策が敷かれていたのを、奈良時代に淳仁天皇が模倣して実施。以後10世紀まで長く活用されてきたという歴史を持ちます。斉彬は、かつての常平倉の政策に改めて目を付けたと言えるでしょう。
琉球を通じて欧米列強の脅威を知っていた幕末の薩摩藩。急いで藩の力を高める必要があった斉彬は、歴史からヒントを得て、激動の時代に備えたのかもしれない。